

## 第4回(平成20年度第1回) ISO/SR 事例WG 議事録

1. 開催日時 : 平成20年7月18日(金) 14:00 ~ 16:00
2. 開催場所 : (財)日本規格協会豊産ビル 7階 701会議室
3. 出席者 : 【敬称略・五十音順】 出席者(○)、代理(△) 欠席者(×)  
主 査 : 田中 宏司(東京交通短期大学) ○  
委 員 : 青木 修三(環境経営学会) ○、倉津 一壽(東京商工会議所) ○、黒田 かをり(CSO ネットワーク) ×、渋谷 弘幸(溪仁会) ○、島田 京子(日本女子大学) ×、土庫 澄子(内閣府) ○、富田 秀実(ソニー) ×、古谷 由紀子(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会) ○、牧 葉子(川崎市) ○、松本 秀一(環境省) △(館内)、吉野 貴雄(連合) ○  
関係者 : 濱坂 隆○、宮澤 武明○(以上経産省)  
岸本 幸子○、由良 聡○(以上パブリックリソースセンター)  
事務局 : 岡本 裕○、佐藤 恭子○、櫻井 三穂子○、(以上 JSA 記)

### 4. 議事次第 :

1. 議事及び資料の確認
2. 規約案及び委員構成の確認、主査の選出
3. 平成20年度の事業計画について(報告)
4. 平成20年度の事例WGの活動について(意見交換)
5. その他

### 5. 資 料 :

- |           |                           |
|-----------|---------------------------|
| WG II-4-1 | SR 事例 WG 規約               |
| WG II-4-2 | 平成20年度 SR 事例 WG 委員名簿      |
| WG II-4-3 | 平成20年度の事業計画               |
| WG II-4-4 | 「SR 実践に関する中小企業事例調査」について   |
| WG II-4-5 | 平成20年度 SR 事例 WG の活動スケジュール |

### 参考資料 :

1. 第3回 SR 事例 WG 議事録(案)
2. 取り組み分布例
3. マトリックス(平成19年度調査結果)
4. やさしい CSR イニシアチブ
5. 実践! コンプライアンス
6. ISO 26000 WD4.2 【原文】
7. ISO 26000 WD4.2 【和訳】

## 6. 議事概要

### 6.1 議事及び資料の確認

事務局から資料確認を行った。第3回 SR 事例 WG の議事録へのコメントは7月末まで事務局にて受付ける。追加の議題は無く議事次第案に則って議事を進行することとなった。

### 6.2 規約案及び委員構成の確認、主査の選出

資料 WG II-4-2 4-3 にしたがって、事務局から、ISO/SR 国内委員会で承認された SR 事例 WG の規約について説明があった。

また、平成20年度 SR 事例 WG の委員構成についても異議なく了承された。

昨年度の SR 事例 WG でファシリテーターだった田中委員に今年度の SR 事例 WG の主査をお願いすることが事務局から提案され、異議なく了承された。

現在、ISO/SR 国内委員会用の Web サイトを構築中であることが事務局から報告された。

今後は、本 WG の名簿、議事録などを、個人情報や ISO のコピーライトの観点から差し障りのない範囲で一般に公開していくことについても、事務局から提案があり了承された。

田中主査の挨拶に続き、委員交代及び変更について委員の紹介が事務局からあった。

環境経営学会 青木委員（新規）

東京商工会議所 倉津委員（伊藤委員と交代）

環境省 松本委員（大久保委員と交代）

### 6.3 平成20年度の事業計画について（報告）

資料 WG II 4-3 にしたがって事務局から平成20年度の事業計画の説明があった。

事業計画について委員から次の質問があった。

Q1：アジアフォーラムにはどの程度のメンバーが参加しているか。

A1：参加人数は30～40人、10～15カ国。東アジアのメンバーを対象に毎年の総会時に ISO 26000 について意見交換をしている。

Q2：昨年度は SR 事例 WG の取り組みについて ISO/SR ウィーン総会で発表していたが、今年度は総会での発表を予定しているのか。

A2：今年度は9月にチリのサンチャゴにて ISO/SR 総会が開催されるが、SR 事例 WG の発表は予定していない。

田中主査から、今年度の SR 事例シンポジウムの PR に力を入れていきたいので、計画をしっかり立てていきたいとのコメントがあった。

### 6.4 平成20年度の事例 WG の活動について（意見交換）

- ・ 資料 WG II 4-3 に従って事務局より平成20年度の事例 WG の活動の概要説明があった。今

年度は中小企業における SR の取り組み事例を中心に調査し、これから SR の取り組みを始める病院、学校、中小組織にとって何らかの有益な提案ができるようにしていきたい。調査についてはパブリックリソースセンターに外注する。

- ・ 資料 WG II 4-4 に従ってパブリックリソースセンターから、SR 事例調査の調査目的、調査内容、調査結果のアウトプットについての詳細の説明があった。続いて参考資料 2 に従って取り組み分布例の説明があった。

- ・ 平成 20 年度の事例 WG の活動説明の後、事例調査について意見交換が行われた。委員からの主なコメントは別紙のとおり。

- ・ 田中主査から次のコメントがあった。

今年度は中小企業にある程度フォーカスをして調査を行う。中小企業の調査結果から中小企業の現状と課題が見えてくる。事例集をまとめる際には各委員からも自身の分野（消費者、自治体、病院、大学、NGO/NPO その他）における課題と現状について回答頂き、中小企業以外の事例も事例集にまとめて次年度に繋げたい。

## 6.5 その他

WG II-4-5 にしたがって事務局より今後のスケジュールの説明と次のコメントがあった。

予定では WG は 3 回の開催（今回も含めて）だが、必要に応じて WG を開催する。2 月に開催する SR 事例シンポジウムは場合によっては ISO 26000 の CD 説明会と共催の場合もある。

以上の事務局からの説明について次の質問があった。

Q：サンチャゴ総会の後の総会報告会を今年は開催するのか。

A（事務局）：今年はサンチャゴ総会の報告会は開催せずに国内委員会にて報告を行う。

これに対して、総会報告会とは異なり、2 月のシンポジウムは実践的に踏み込んだ発表をした方がよい。各委員のご協力を頂き資料を整理したい、と田中主査からコメントがあった。

続いて事務局から、パブリックリソースセンターに事例調査をお願いするが、ヒアリング対象として適切な組織があれば事務局、又はパブリックリソースセンターにご提案／紹介頂きたい。また、各委員にも業界団体や中小組織へのヒアリング調査の調整をお願いする可能性があること、ヒアリングを受けて頂く可能性もあるのでご協力頂きたい、との依頼があった。

なお、報告書を作成した後の取り扱いについては、機密事項等は除いて Web にて公開することを考えているとの事務局案に対して、Web 以外にも冊子にすることが大切で、次年度に繋がるので委員には冊子で配布して頂きたい、との田中主査からのコメントがあった。

次回の WG は 10 月を予定しているが、必要に応じてその前に開催することもあり、その場合は事務局より案内をする。ご意見やご提案があれば事務局宛にお送り頂きたいとの田中主査から閉会の挨拶があった。

以上

## 別紙：平成 20 年度の事例 WG の活動について主な意見

- Q：参考資料 2 にある中からヒアリング先を選ぶ予定か。  
A：参考資料として提出しているの、必ずしもここから選ぶというわけではない。資料に掲げている組織は必ずしも中小企業に限定していない。生活共同組合や病院等もこの中には挙げている。
- WG II-4-4 2. (1) の調査内容だけで、中小企業の幅広い事例が出てくるかどうか懸念する。必ずしも参考資料 2 ほど中小企業の事例については広報されていないのではないかと。関係者についても必ずしも全部を知っているわけではないので、もう少し大きく捉えた方がよいのではないかと。
- 中小企業の場合、網羅的に全部実践しているわけではないので、全体像を見るのに工夫が必要である。中小企業で実践していることが ISO 26000 に照らしても世界の動きに沿っているというインセンティブを与えることが必要であり、これがヒアリングのポイントと考える。
- 先端的な部分を取り上げるのではなく、中小企業に共通な部分に焦点を当てないと調査を実施する意味が無い。そういう意味では非常に難しい課題と考えるので、中小企業に共有な課題に焦点を当てることが重要である。
- 特に非営利の団体の場合、ヒアリング調査ではなかなか事例が出てこない場合もよくあるので、むしろ、業界団体に取り組みを問うのがよいのではないかと。
- 大学は個々の活動はしているが、必ずしも大学全体としての情報が入っているというわけではない。事務方と教職員の意見交換まではしていない。業界団体によっては、団体よりも有識者にヒアリングした方がよい場合もある。
- 調査時には母集団の数が重要であるため団体にヒアリングするのは大切と考える。また、中小企業の SR 事例と ISO 26000 にはギャップがあると考えるので、ISO 26000 を発行する際には利用者の立場に立った普及が必要と考える。
- サプライチェーンの事例については、「CSR 調達を行う」といった大企業の理念ではなく、川下の現場でどのように実践されているかについて調査していくことが大切と考える。

- ・ サプライチェーンの事例となると抽象的になるため、CSR の実施において、何がネックであるか等、少しでも実情が分かる様な調査が必要。
- ・ Q：調査結果がまとまった際に WG で議論して、その議論を基に、再度調査を行っていくのか。  
A(事務局)：途中で一度調査結果の中間報告を行い、各分野の委員からのインプットをもって軌道修正を行って行きたい。そのため、当初 3 回と予定しているが、進捗状況などによって事例 WG の開催回数を必要に応じて増やしていきたい。各委員には自分の組織で使う立場からの視点で調査内容を見ていただきたい。
- ・ ISO や他の任意の国際的な指針については「大企業ならできるけれども・・・」ということがよく聞かれる。国際的な標準とは関係なく独自に SR に取り組んでいるのか、大企業ほどの対応はできないが ISO や他の任意の国際的な指針を意識しながら取り組んでいるかについても聞いていただけると有難い。
- ・ 現状の中に様々な大企業と異なる様々な問題が含まれている。協会・団体にはその類の情報が蓄積されていると考える。20 社では中小企業に対する網羅性が低いため、団体や協会から意見をもらって補強をすると報告書が充実する。

以上